
ITを用いた医学部学士編入学AO入試受験生 サポートシステムの試み

川崎 勝, 乾 誠, 福本 陽平, 大久保 敦, 三浦 房紀, 石原 得博 (山口大学)

山口大学医学部医学科では、平成14年度から学士編入学試験にAO型選抜方法を導入し、同時にITを用いた受験生サポートを開始した。このIT受験生サポートシステムの運営を開始して2年間が経過したが、受験生側からは好意的に受け入れられている。そこで、この2年間の経験を踏まえ、本システムの導入の背景、目的、システム設計・構築、反応、展開、そして今後の展望について報告する。

1. はじめに

山口大学医学部医学科では、平成13年度入学者より学士編入学生の受け入れ(定員10名)を開始し、さらに平成14年度入試より施設訪問・体験授業・複数回の面談などAO入試の特徴とされる諸点を取り入れたAO型選抜方法を導入した。

このAO型選抜方法の導入と同時にWebサイトとメールを中心としたITによる受験生サポートシステムを立ち上げ、2年間にわたって実施してきたので、その内容を報告したい。

2. 医学部学士編入学学生をめぐる概況

医学部医学科の学士編入学は極少数の大学においてかなり以前から導入されていたが、あくまでも例外的な制度にとどまっていた。それが急速に普及してきたのは平成10年度に群馬大学が定員15名で導入して以来のことであり、国公立大学に限っても平成15年度入試において全国の27大学で実施されている。

しかし、急速に普及したとはいっても、現在でも総定員は185名であり、群馬大学の初回のように169倍という驚異的倍率はなくなったにせよ、依然として数10倍の高倍率の大学が多い。また、受験者のバックグラウンドは極めて多様性に富むものとなっている。

一方、受験者側の視点から見たときに、この学士編入学試験の大きな特徴は、極度に情報が

不足していることである。特に、学士編入学志願者は、一度は一般の大学入試を経てきた者であるため特に意識しなくとも編入学試験と一般入試をごく自然に比較して受け止める。そうなれば、高度に発達した受験産業が提供する極めて豊富で詳細な情報を出願にあたって活用できる一般入試に比べて情報不足が著しいと受け止められるのは不可避である。

他方で、一般論として、学士編入学受験者はITの使いこなしにたけた者が多い。実際、医学部の学士編入学制度が拡充し始めて以来、たちまちの間に、これをテーマとしたWebサイトやメーリングリストがネットワーク上に自然発生的に多数誕生し、情報不足を補うかのように活発な情報のやりとりが続いている。

3. 山口大学のITサポートシステム導入の目的

以上のような、「情報不足」と「ITへの高い習熟度」という現状分析に基づき、山口大学では医学部と受験生との間の双方向性の実現を重視し、人物本位の選抜を実現するために、

- ・ 積極的な情報公開を目的としたWebサイト
- ・ 個別の質問に迅速に対応することを目的とした電子メール

を2本柱とした受験生サポートシステムを立ち上げ、可能な限り受験生の便宜を図ることにした。

4. サイト構築とシステム設計

4.1 Webサイト

本学の学士編入学 AO 入試の Web サイト (<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~aomed/>) では、学士編入学希望者とはいえども IT への熟練の度合いには、なお個人差が大きい点に鑑み、初心者でも分かりやすいサイト構成の簡便さを重視しつつ、受験生にとってなじみが薄い「AO 入試」の考え方を平易かつ率直に伝え、かつ最大限積極的な情報公開を行うことに力点を置いてサイト構築を行った (図 1)。

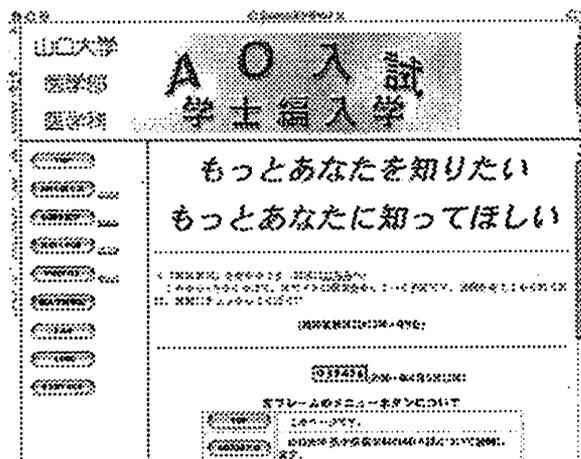


図 1

上部にデザイン的な統一感を与えるためのロゴを配し、また各主要項目へ1回のクリックで到達できるように左側にフレームを配した。この両者は Web サイト上で常に表示され、サイト内ではいつでも好きなページに移動できるようにした。したがって各ページのメインコンテンツは右下に表示されることになる。

主要ページ(左フレームに常時表示されるサイト構成)は以下の通りである。

1. TOP
2. AO 入試とは
3. 出願手続き
4. 合格への道
5. PROFILE (2年目から)
6. 編入学体験記 (2年目から)
7. FAQ
8. LINK
9. CONTACT

「TOP」ページはサイト全体の顔であり、本学があえて AO 型選抜方法を導入した理念を簡明に表す「キャッチコピー」をメインに配した。それが「もっとあなたを知りたい もっとあなたに知ってほしい」である。それ以外の内容は、重要なニュースとサイト構成の説明である。

「AO 入試とは」のページでは、編入学希望者に「AO 入試」の概念があまり一般的ではない点に鑑み、可能な限り分かりやすくかつ親しみやすく率直に AO 入試について説明した。なお、このページにもキャッチコピーを採用した。それは「医学部のインフォームドコンセント」である。

「出願手続き」と「合格への道」のページは、出願までとそれ以降に分けて、具体的な受験要領について説明した。

「PROFILE」と「編入学体験記」のページについては後述する。

「FAQ」、「LINK」、「CONTACT」は、それぞれ一般的な「よくある質問とそれへの回答」、「主要関連サイトへのリンク」、「連絡先」のページである。

4.2 電子メール

個別質問のメールに関しては、Web サイトに明記した質問送付用アドレス宛にメールが送られると、AO 入試実施委員と関係職員を構成員とするメーリングリストに自動的に配信されるように設定した。そして、このメーリン

グリスト上で回答案を練り、意見の一致を見た内容を代表のアドレスで質問者に返信するようにした。

この際、一般の電子メールというメディアの大きな特徴が迅速性である点に鑑み、質問メールに対してもできるだけすみやかに回答することを重視し、単純な質問であれば3日程度、協議が必要な場合でも可能な限り1週間から10日程度で返信できるようにシステム設計(ルール作り)を行った。

具体的には、回答原案作成者は、質問メールの投稿があった場合、原則として即日処理を行い、回答原案をその日のうちにメーリングリストに投稿する。他のメーリングリスト参加者は、メーリングリストに回答原案が投稿されてから原則として2日以内(週末を挟んだ場合、その分だけ期間を延長)に原案に対する意見をやはりメーリングリストに投稿することとした。メーリングリスト上の議論の結果、最終案がまとまればそれを正式に回答とし、また仮に、特に意見が投稿されない場合は、回答原案が正式に承認されたものとして、AO入試担当職員が回答を質問者に送られるように役割分担を設定した。こうしたルールの下、大多数の質問メールは1週間以内に返信を送ることができている。

また、質問への回答は、できる限り親身かつ率直に記すようにしている。一例として、メールの回答文を掲載する。

=====

×× ××さま(注:伏せ字引用者,以下同)

山口大学医学部 AO入試実施委員会です。

×× ××さま(注:伏せ字引用者)が「Sat, 20 Jul 2002 19:57:41 +0900」に送られた「医学部社会人編入学に関する質問」のメールから引用します:

>私は現在、某外資系製薬会社の生物系研究員

として4年半ほど勤務してきました。

>28歳の今、今までの知識を活かして医師を目指そうと考えています。

>しかし、家庭をもつ現在、4年間の学費や生活費のことを考えると、なかなか踏ん切りが付きません。

>私と同じか、それ以上の年齢で貴学に社会人編入学し、医学を学んでいる方々がいらっしゃると思いますが、それらの方々は学費や生活費をどのように工面しているのでしょうか。

>特に家庭をもっている方々はどのようにしているのでしょうか。

現在の学士編入学生で、××さまと同年代以上で家庭がある学生さんは13年度入学、14年度入学ともに数名ずつおられます。

学生さんのプライバシーにかかわることを詳細に提示することはできませんし、また個々の学生さんにより事情が大きく異なりますが(配偶者の方が定職にあるか、また、入学前の貯金がどの程度あるか、など)、率直なところ、経済的には入学前に比べてかなり苦労されています。

大変残念なことに、奨学金制度や、入学金・授業料免除に関しては、全国の国立大学で一律の基準で運営されており、一般入学の学生さんを対象に制度構築されておりますし、さらに、昨今の「行政改革」のあおりを受けて、奨学金を受けるのも(特に無利子の場合は)厳しい状況です。とりわけ入学直後に関しては、審査の書類の数字が「前年度」の収入なので、この点が学士入学の学生さんには不利に働くことは否めない事実です(追い打ちをかけるようで恐縮ですが、「税金」と「健康保険」の算定の数字もこれです)。

上記のような点で、制度的な不備を感じ、できる限りこの点を改善できるようにわれわれも精一杯の努力を払っておりますが、大学全体の制度から見た際に、医学部の学士編入学が「例外」的存在として扱われてしまうのが現状

です。この点が改善されるまでには、少なくとも今後10年近い歳月が必要に感じてしまいます。

他方で、それだけの困難がありながらも、それでもあえて編入学にチャレンジしてもらえ、強い意欲のある学生さんを歓迎いたします。

>以上に関して、参考になるような情報がありましたら、教えていただけないでしょうか。

山口大学医学部として提供できる情報は、本人自らが実名で率直に語ってくれた、

AO入試のWebページ

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~aomed/>

の「編入学体験記」の項目の○○○○さんの文章が唯一のもので、

=====

5. Webサイトの受容状況

Webサイトに関しては、開設して2年間で約4万アクセスを数えた。また、第2次選抜合格者(平成14年度入試38名、平成15年度入試41名)に対して実施したアンケートでは、2年続けてほぼ全員が比較的頻繁にアクセスしていることが確認できた。

また、質問用のアドレスに、大手受験産業に従事する方から下記のような賞賛と激励のメールも届いた。

=====

はじめまして。

××××の進学情報課の××××と申します。

職業柄、会員(生徒)のみなさんから医学部医学科学士編入学試験についての質問をうけることも多くそのための資料作りの最中、貴校のHPを拝見いたしました。

すばらしい内容にあまりに感銘を受け Mail

をさせていただいた次第です。

様々な大学のHPを閲覧していくうちに豊かな人間性、健全な倫理観、医療への強い使命感などどの大学でも重視しているのだと感じました。

しかし、その一方で選抜の方法は生命科学を中心とした学科試験と面接、小論文などでどれほど志願者の人間性などが理解できるのか疑問に思うところもありました。

また、豊かな人間性、健全な倫理観、医療への強い使命感を志願者に要求しながら、そのページからは発信する側のそれらを大切にしている思いがあまり伝わってこなかったのです。

それに、あまりにも完璧な人間を望んでいるかのような印象も受けました。豊かな人間性、健全な倫理観、医療への強い使命感。これらをすでに完璧に備えている人などそうはいないと思いますし、これらのことを教える・伝えることが大学における医学教育の大切さだと個人的には思っています。ですので、教授する側に豊かな人間性、健全な倫理観、医療への強い使命感がなくてはならない。これらが無い大学などないとは思いますが、大学側の思いがあまり伝わってこないのを残念に思っていました。

- ・人間的ならびに学問的により成熟し、社会的にリーダーシップを発揮くしうる>
- ・人間的に成長していることが期待くできる>
- ・ひとつの学問的専門分野を習得する・・・体得できていることが期待くできる>

(上3行は山口大学医学部医学科 AO 入試 Webサイトからの引用：引用者注)

志願者の将来の可能性に期待する熱い思いがひしひしと伝わってきました。

(中略)

極端な話しになりますが、ただ「カッコいい」

から医者になりたいという志願者がいたとしても、貴校を受験することにより大切な何か志願者に芽生えるような素晴らしい入試のように感じました。医学部の学士編入学試験はどの大学も狭き門の激戦になっているようですが、貴校を受け合格した人はもちろんのこと残念ながら不合格になった人にもなにか大きなものをもたらしてくれるのではないかと思います。

ここまで手間と時間をかけた選抜はなかなか大変ですが、これからもずっと続けて行ってください。他大学の医学部でもこういった選抜方法が広がることを期待しています。

(後略)

=====

不特定多数の自由なアクセスをシステム上の特徴とする Web サイトの効果を客観的に評価することは困難であるが、素人が手作業で作成しているサイトにしては、閲覧者から好意的に受け入れられていると判断して手前味噌ではないと思われる。

6. 編入学入試の「神話」

一般に入試に関して、どのように合否が決定されるのかが受験生の目から見てブラックボックス化しており、その結果、受験者は「まな板の上の鯉」状態に置かれることが多いため、しばしば「神話」が発生する。

特に医学部の編入学入試の場合、受験者が年齢もバックグラウンドも極めて多岐にわたり、加えて極めて高倍率（山口大学の場合、平成14年度入試で27.6倍、平成15年度入試で31.5倍）であるため、一般入試よりも一層「神話」が発生しやすいことが質問メールとのやりとりで浮かび上がった。メーリングリストを用いたサポートシステムでは、開設して2年で約360通のメールが交わされたが、特に初期では、例えば「実質的な受験年齢制限は何歳まででしょうか？」という内容（類似のものとして「文

The image shows a screenshot of a web page titled 'PROFILE'. Below the title, there is a sub-header '平成15年度編入学' (Heisei 15th Year Transfer Student). The main content is a table with multiple columns and rows, containing detailed information about the students, such as their faculty, origin, and age. The text is small and somewhat blurry, but the structure is clear.

図 2

系でも合格の可能性はあるのでしょうか？」等々)のメールが多数届いたのである。

Web サイトとメーリングリストを活用したシステムを考案した時点から、両者の連動を考えており、メールでよくある質問 (FAQ: Frequently Asked Questions) に関しては、その概要をそのまま Web の「FAQ」のページ掲載するようにしていたが、頻繁にメールのやりとりを重ねるうちに、複雑で微妙で疑心暗鬼に囚われやすい受験生心理が痛感され、「双方向性と丁寧な選抜」が売り物の AO 型入試を標榜する以上、諸々の「神話」を打破するためにも、より高度なメーリングリストと Web の連携を模索するようになった。

まず試みたのが、志願者と各選抜段階での合格者に関する基礎情報の Web 上での全面公開である (図 2)。「概況」・「年代別」・「出身学部別」・「現況」別にすべてのデータを Web で公開することにした。この際に、学内で議論になったのは、情報公開と個人データの兼ね合いの問題であったが、わずか 10 名の合格者であるためある程度事情を知っている者からは個人の特定が可能になりうる出身大学名は伏せることにした。それでも、年齢や出身学部による選抜上の取り扱いの差を設けていないことは「論より証拠」で具体的数値により明らかになり、この点に関する質問メールは激減した。

「PROFILE」ページの作成・公開について取り組んだのは、合格者による「編入学体験記」ページの作成である。諸々の質問にひとつひとつ回答しながら、「学士編入学」というもののあり方に関する期待と裏腹になった強い不安感が痛感され続けたためである。実際、学士編入学の志願者は、高卒生とは異なり、既に一旦自らのキャリアを形成しつつあるにもかかわらず、それを振り捨てて改めて医学の道を志すわけであるのだから、その不安感には根拠があるし、特に既に家庭を形成している場合、経済的問題を含めて悩みは深刻である。こうした諸点に関して、実際に学士編入学した学生に語ってもらい、それを志願者に提供することを通じ

ころ、非常に好評を博しているのです。こうしたページには受験者側の強い需要が存在することは容易に把握できていた。

こうして、学士編入学学生の執筆協力を得て作成したのが「編入学体験記」のページである(図3)。やはり、個人情報に関しては気を遣い、「氏名・年齢・性別・出身大学・前職等は、すべて本人の了承がとれた範囲内で記載する(全面開示から完全匿名まで)」との前提で体験記の執筆を依頼したところ、非常に多くの入学者が積極的に協力してくれたのである。一部、医学部側として耳が痛い内容も含まれているが、用語と書式の統一など必要最小限の編集を行った以外は、すべて入学者が書いたままの原稿を掲載することにした。集団としてみたときに極めて多様性の大きい入学者たちが、それぞれの立場から率直な肉声を語り、バラエティ豊かな内容となった。実際に受験生に感想を聞いたところ、予想以上に好評であった。

学士編入学でAO型の入試を行うという前例のない試みに着手した以上、ある程度の暗中模索を強いられることは覚悟の上であったが、話を「受験生サポート」という側面に限定するならば、その課題のほとんどは「神話との戦い」であり、この課題を解決するためには可能な限りの情報公開を通じての透明性の確保しかないことをここ2年間の経験を通じて強く実感した。

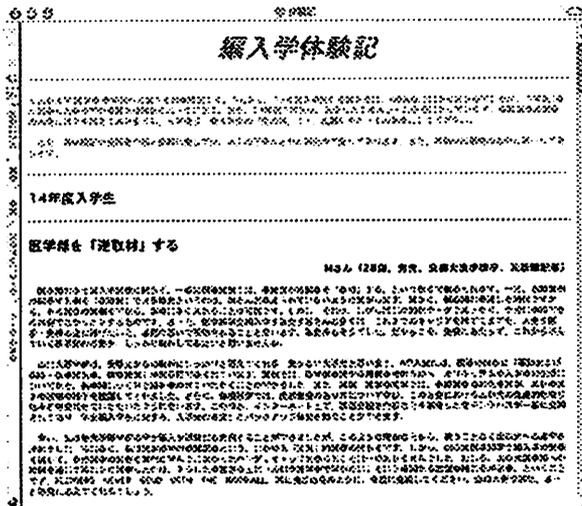


図 3

てサポートすることを考えたわけである。もちろん「合格体験記」というアイデア自体は陳腐なものであり、一般入学であれば、諸々の受験情報の一部としてかなり流通しているものではあるが、従来、学士編入学入試では数の少なさ故にほとんどまとまったものが存在しなかった。こうした情報不足が、先に触れた「神話」の流通の大きな原因になっていることは明白であり、それを解消するのに少しでも貢献したかったからである。実際、AO入試で、施設訪問の際に、入学者との懇談の時間を設けたと

7. 今後の展望

本項で紹介してきたITサポートシステムの設計に着手して3年近くが経過した。この間、順調にWebサイトへのアクセス者数は伸び、また、学士編入学制度をめぐる状況がやや落ち着いたのを受けて多くの大学が志願者を減らしつつあるのに対し、山口大学は志願者数を伸ばすことに成功している。他方、Webサイトの内容の充実(特に「PROFILE」,「編入学体験記」,「FAQ」)に伴い、単純な質問メー

ルの数は激減した。これは、「PROFILE」、「編入学体験記」、「FAQ」のページの作成と充実に務めてきた際の大きな動機であったが、予想よりも早く効果があがった。

受験生や入学者の声を聞く限り、山口大学医学部医学科が導入した IT を用いた受験生サポートシステムは概ね機能しているが、電子メールのように所期の目的をほぼ達成し終えたものもある。今後、受験生に対してより親身できめ細やかな対応ができるようにシステムの改善を図っていきたい。